

サウディアラビアの教育

—教員養成とコンピュータ教育—

はじめに

二〇〇〇年三月末より五月末まで、サウディアラビアに二ヶ月間滞在した。JICAの専門員として、教育省をベースにして教育関係者と意見を交換したり、コンピュータ教育のワークショップや講演などを担当するためであった。

サウディアラビア教育省の二ヶ月の滞在中、教育大学課には二週間滞在した。最初の一週間はスタッフと会い、その課の任務と彼らの抱える問題などを認識することにした。次の週には全国の教育大学から参集した幹部達のワークショップを担当した。ワークショップでは、教師研修の内容や方法について議論したり意見交換したりし

た。

教育省をはじめ、教育関係者は日本を先進国とみなして、謙虚に日本の経験から学ぼうとする姿勢である。そのため、機会あるごとに先進国の実情を知ろうとして質問を投げかけてきた。それらの質問は彼らが現在どのような問題意識を持ち、どのような方向へ進もうとしているかを我々が知る手がかりとなる。そのために、できる限り彼らの質問を記録することに努めた。それを資料として最後に付記することにする。

彼らと接して、明治の新政府が近代国家の建設のために西洋の先進国に学ぼうとした熱意もかくやと思われた。国家が出来て百年、天然資源を財源とした近代化に取り組むようになって六十余年。砂漠の遊牧民が定住して都市を形成するようになった歴史も浅い。こうした発展途

川 合 治 男

上にある国家には特有の問題がある。その一方で情報通信のようなハイテクノロジーの導入などに関しては、わが国と共通する部分もある。王国の教育の近代化と苦闘は決して対岸の火事のように座視できるものではない。

本稿は王国の教育の現実を把握し、その課題への取り組みを分析することにより、わが国が抱える問題の解決法を考察するための手がかりを得ようとするものである。

一、ワークショップ、講演

教育省のいくつかの部局、教育大学、教育委員会、工業技術短大などで行ったワークショップや講演ではコンピュータ教育以外にも、教師教育や教員研修などを取り上げた。それらのトピックは次の通りである。

- ・教員研修一般の問題…研修計画、研修生の選抜、研修内容と方法、研修実施上の留意事項
- ・工学を利用した教員研修の計画立案…目的、内容、方法、使用機器、評価
- ・教師に工学を利用するよう奨励するにはどうしたらよいか？

- ・教育に於ける工学の利用
- ・王国のすべての教員にコンピュータ利用をさせるのにはどうしたらよいか？

・遠隔教育

・教員研修とインターネット

教育省を始め、教育大学、教育委員会などでは研修をきわめて重視している。幹部と話していると、「研修」という言葉がさかんに出てくる。教員には研修の機会が多く与えられているので、研修に参加する教員数が多い。教育省のスタッフのためのワークショップに課長以下の幹部が参加していたのは言うまでもないが、教育大学などのワークショップでも学長、副学長、所長などが他の参加者と一緒に討論に参加していた。

二、教育大学の教員と施設

全国一八の教育大学の教員は王国だけでなく諸外国からも採用している。現在の教員数は一、九二五人であり、その出身国別の人数は次のとおりである…

サウディ人 九一七 外国人 九九八…その内訳は、

エジプト 六七一 スーダン 一二七

ヨルダン 九五

シリア 六五

パレスティナ 二四

チュニジア 一九

アメリカ 一〇

モリタニア 一

イエメン 一

インド 一

エテイオピア 一

エジプトが絶対多数ではあるが、出身は中東のすべての国とアフリカにわたっている。そのため、応募者の選考と面接は教育省から外国へ出向いて行っている。テレビやラジオ、或いは文部大臣宛のメールなどで募集の広告を出している。教育省のスタッフの人的構成もほぼ教育大学のスタッフと同じ割合である。

国内外を問わず、教育大学の教員の採用は三人との面接、過去の経験、専門の知識、教師経験などに基づいて行われる。Ph.D.が応募条件ではないが、採用された教員は国内八大学でM.F.C.を取得するよう奨励される。四五歳未満の教員が応募できる。採用された教員は国内の大学へ通学することが奨励され、希望者は全員が国内で通学することを許される。物理、数学、コンピュータ科学、英語の教員は合衆国へ派遣される。英国には二〇〇人が滞在中。今年は五七人の応募者のうち五〇人が米国内に派遣された。海外留学教員には教育省から奨学金と給

料が支給される。奨学金は米国では月給二、二〇〇リアル（三二〇ドル）と、年一〇〇、〇〇〇から二二〇、〇〇〇リアル（二六、七〇〇米ドルから三三、一〇〇米ドル）。給料以外に五、〇〇〇リアル（一、三三〇ドル）の学費と給料一か月分がボーナスとして支給される。Ph.D.志願者には七、〇〇〇リアル（一、八七〇ドル）が支給される。派遣期間はB.A.が三十四年、M.A.が二三年、Ph.D.は三十四年である。留学教員には補充教員が配属される。¹⁾

リヤド教育大学の教員二〇〇人（サウディ人二〇〇人）のうち、一二〇人がM.F.C.を保有している。今年度留学中の教員は一五人である。教育大学のサウディ人教員の初任給は二、六〇〇ドルで毎年一五〇ドル昇給する。教育大学学長は八一九千ドルである。平均的な一般職のそれは一、八〇〇ドルである。

教育大学の施設設備は十分とは言えない。一つの研究室を数人で共有することもある。図書館は旧式の分類システムのままであり、まだ電子化されていない。これは現在建設中の図書館が完成するまで待たなければならぬ。実験室などは旧式のままであり、使用に耐えられないため博物館的な役割しか持たない器具が多い。それを教育工学の実験室を例として見てみよう。

(1)教材制作室…この部屋に収納されている教材、器具な

どは、学生自作の教材、掲示板、ピクチャーボード、

三次元掲示板、布製ポケット板、ジオラマ等。その他、

読み方指導教材（フラッシュカード、文字カード、シ

ルエット、発音練習機、時計板）フランネル板、回転

掲示盤、マグネット盤、サンドペーパー板、標本、漫

画、三次元模型、各種映写機（ループレフィルム、スラ

イド、コンセプトフィルム、実物投影）などがある。

一九五〇、一六〇年代の大学の視聴覚教育の教科書で紹

介している教材教具がほとんど揃っているといつても

よい。ただし、どれもはや実用には使えず、練習用

に使うだけである。このような古い機器を修理したり

維持したりするのは無用であるという。更新のほうが

修理代より安いし、部品はもはや入手できない。³⁾

(2)写真の暗室には基本的に不可欠な備品がない。水道と

下水設備が不備である。写真暗室であるのに薬品廃棄

用設備がなく、薬品（現像、焼付け薬品）処理用の流

しが不備である。暗室の換気扇もエアコンもない。戸

棚、薬品コンテナ、印画紙入れなどが無い。薬品の

トレイ、暗室灯、暗室時計などの備品もない。このよ

うに、写真暗室は全く役に立たず、博物館としての役

割しか持たない。

三、教育大学の学生

王国の教員を養成する機関は教育大学 Teachers'

College である。その歴史は半世紀に満たず、一九五三

年に三つの中等教育機関が設けられ、初等教員の養成が

開始された。最初の学生は七九人だけだったという。卒

業生数は六四年までの十一年間で七、五五六人となった。

翌年、新たに七つの学校が設立された。その二十一年後

の八六年に更に四七校設立され、学生総数は四、二五二人

であった。現在の教員養成機関である教育大学は七六年

設立であり、やっと四半世紀たったところである。この

大学では二年間に七十五単位を取得すれば教員資格が受

けられることになった。八九年までに教育大学の数は全

国で一八となった。ただし、この時期の教育大学の数はまだ

短期大学であった。リヤドの教育大学の入学生は五〇〇

人である。⁴⁾

王立大学の教育学部でも中等教員の免許のための単位

を取得することは出来る。大学にはコーラン研究、イス

ラム研究、アラビア語、社会学、理科、数学、美術、体

育、コンピュータ、英語の専門領域がある。しかし、後述するように教育大学卒業生の就職は保証されており、しかも、教職はこの社会では特別に待遇されているために、教育大学への入学希望者は多く、競争率は高い。ただし、外国人は入学できない。王立大学も同様であり、三万人の志願者のうち五―六千人が入学を許可される。この王国では高等教育機関は授業料を徴収せず、逆に学生は給料（奨学金）が支給される。金額は理科系が月額二七〇ドル、文化系が二二〇ドルである。⁵⁾

教育大学では次のような入学者選抜方法を取っている。

一、高校の成績が八十五点以上であること

二、面接により教師適性を見る

三、専門教育と一般教育の筆記試験

四、美術と体育の能力試験

五、専攻分野の高校の成績

一九九三年から一九九九年までの七年間の学生総数は二三、〇二九人であり、今年度卒業見込み学生は三、二六四人である。全国の一二五、〇〇〇人の教師のうち、四五、〇〇〇人が教育大学卒業生である。教育大学卒業生の九九%が教師となる。理科と数学教師は王立大学の卒業生である。⁶⁾

四、教員養成

日本と同様、B A取得には四年間かかるが、十年前までは教育大学は短期大学だったために、B Aを所持していない教員が多数を占めている。そのため、教育大学や王立大学ではそれらの教員の研修に力を入れている。教育大学では毎年五〇〇人の教師がフルタイムの学生として入学して二年間の研修を受け、B Aを取得する。

教育省は二年前にも新しい教員養成制度をスタートさせた。それによると、小学校教員になるためには、(1)最初の二年間は一般教養を取り、(2)専門分野に二年間をあて、四九―五〇単位を取得する。ただし、専門単位は全体の三〇%以下とする。また、中学校教員になるためには、専門科目を一〇〇時間以上取得する。特に、数学、コンピュータ、理科、英語の四教科では教職より専門が重視されるのである。

教育実習は一学期間、三・五―四ヶ月間（大学の第八学期）行う。実習生は市内の学校で実習している間に大学で二講義を受講することができる。

教員の給料は他の分野の卒業生より三〇%増しである。

特殊教育教員の給料は一般教員の更に三〇％増しであることが魅力となつて、キングサウド王立大学だけでも、特殊教育専攻生は三、〇〇〇人である。定年退職などによる教員の年間の欠員は八％である。⁵

五、学校

日本と同様な学校制度であり、小学校は六年までである。一クラスのサイズは二〇人から三〇人くらいである。以下、学校種別ごとに見てみよう。

一) 公立小学校⁶⁾

教室の備品としてはテレビくらいである。しかし、教卓以外に踏み台つきの講演台のようなものがある。これは指名された児童が一人ずつ皆の前に立ち、コーランの暗誦などをするためのものである。二年生の交通法規の授業では、教師が自作した教材を取っかえ、引っかえ使いながら変化に富んだ活動をしている。子どもを活動させ飽きさせない。玩具、掛図、模型、独創的な教具など、次々と出して説明したり、児童に使わせたりしている。マイクを持って室内を行進したりしながら、児童を絶えず間なく活動させている。見事な授業進行である。壁に所

狭しと掛けられている掲示物も、ほとんどこの教師の自作の物である。すべて費用は自分持ちで制作したと言う。四年生の美術の授業では、この国の建築物や屋内装飾などで見かけるような、伝統的な図柄を使って絵を描いている。写生でもなく、デザイン画でもない。このような装飾パターンが既に四年生あたりでは身につけているようだ。この学校に限ったことではなく、こうした絵画制作はサウデイでは日本より盛んのようなのである。展示してある作品などからも、絵を描く活動に力点をおいていることがわかる。ただし、独創的な表現というより、手本の模倣による作品の制作と言うことができる。そのことは教材室に展示してある児童の作品からもうかがえる。絵画や模型などの児童作品はどれも同じような特徴であり、特定の手本の模倣による絵画や作品制作のように見受けられる。児童自作の模型は段ボールや空き缶、ペットボトルなどの材料を使っているが、出来栄は立派とは言えず、むしろ稚拙な感じさえする。手先の器用さが不足しているのだろうか。

同様のことが教師作成の教材にもあてはまる。理科室、社会科室、図工室などに収蔵されている実験器具、模型、ポスターなどの作品は、アイデアは優れているが、その

出来栄えはお世辞にも立派とはいえない。ペットボトルや段ボールなどの廃物利用ということもあるが、製作技術が劣っているということもその原因である。出来栄えをよくしようとしなかったり、細かなことに煩着しない、ということなのだろうか。

五年生の教室ではコーランの暗誦。指名された子どもが教室の前の段の上に立ち、暗誦を披露する。間違いを皆が指摘する。この繰り返しである。王国の学校ではイスラム教義の学習が最も重視されており、国民はコーランを暗誦することがほとんど義務になっている。時間をかけた暗記以外には学習方法はない。それを小グループで行うために、会議用オーディオシステムが使われている。一グループ四―五名の児童がそれぞれヘッドセットを耳に当て、グループの真中に置いたマイクに話し掛け、歓声をあげたりしながら楽しそうに暗誦をしている。通常は中学二年の一四歳くらいまでにすべて暗誦できるようになるという。

二) 私立小学校⁸⁾

授業料はバスの送迎付きで、七、〇〇〇SR (二二、〇〇〇円)、送迎なしで五、〇〇〇SR (一五、〇〇〇円)。比較的裕福な家庭の子どもが通学する。公立学校の方が

教員給与は高いという。低学年一―三年は七〇〇人。高学年四―五年は五〇〇人。両者は隣り合っているが、全く別の学校組織という。一五人の生徒で教室は満杯。八時四〇分に全校児童が中庭に集り、クラスごとに教師を中心に車座になって朝食を取る。朝食を自宅から持参する子もいれば、売店でサンドイッチや飲み物を買う子もいる。

私立学校なので政府の補助はほとんどない。六年生は一クラス二〇名。英語の授業では“Let's Learn English”という教科書を使う。多くのカラー写真や挿絵つきである。授業は英語で進められる。公立学校では中学年から英語を始めるが、この私立校では一年生から英語の授業がある。

六年生の算数のクラス。授業始めに二―三分間、掛け算の小クイズ。週二回行い、その都度結果をノートに記録し、後で一括してコンピュータ処理する。授業では指名された特定の子どもが黒板に問題の答えを書く。皆で答えを確認する。この繰り返しである。算数のこの授業スタイルは他の学級でも見かける風景である。

五年生の理科では模型を使い、物理運動の学習をしている。ベルトを使い、滑車の動きの学習。講義ではなく、

自分達の経験から解答を導かせている。ここで使う実験装置の多くは教師の自作である。それも廃物利用のようなものである。しかし、具体物や模型などを使って概念の直観化をはかるように教師は努力している様子がわかる。

隣の教室ではアラビック習字の授業。生徒は児童ではなく髭づらの教師たちである。一人の教師が指導者となり、他の教師たちが生徒となってアラビア習字の研修を受けているのだ。習字だけではなく、他の教科などの研修もいろいろあり、それぞれ得意な教師が指導者役を勤める。教師は週一回このような研修時間を持つ。

コンピュータは週一時間、主にリテラシー教育を行う。ラボには二十台の端末があり、休み時間にも使える。

三) 公立中学校 七一九学年⁹⁾

生徒数七五〇人。教員数四一人。ロの字型の建物で囲まれた中央部は吹き抜けのお祈りの場所である。

英語の授業は現在は六年生からであるが、来年は四年生からという。六年生は五月の学年末にGeneral Certificate Examを受けることになっている。ラボにはLAN接続された十二台の端末とサーバーが一台ある。ネット接続しているのはサーバーだけである。OSは

WindowsNTである。端末一台を二人で使う。ラボの授業内容は…表計算、インターネット (Communicator)、プログラミング、マルチメディア (CD-ROM, PowerPoint)、データベース、OS (Windows98, 2000)、ワープロ、グラフィックス、等。ラボは朝六時半から夕方七時まで使用することができる。

普通教室は四〇人の生徒で満杯となる。室内には特に飾りはない。理科室には水道があるのみ。物理室には大型テレビとVTRが正面に据えてある。教育資料室は図書室の一部となっている。来年度コンピュータが入るため、パソコンテーブルが四一五台未梱包のまま並べてある。

四) 高校 一〇一二年¹⁰⁾

生徒数九六〇人、二五クラス。教師三七人。カウンセラーが二人、校長、教頭三人、事務員二人。火、水は六時間、土から水まで七時間。木金は休み。夏は七時から一時まで、六―七時間。冬は七時間半から一時間半まで、四五分授業である。一年生は全分野、二年生以後特定の専門教科に集中する。二つの専修 (理科とイスラム) がある。

物理実験室には生徒の独創的な発明品が展示してある。これらは廃物利用と発明の奨励にもなるという。水を使

ったエアコン、警報装置、ベッドウインのテントの改良方法などの模型やジオラマ。ただし、ダンボールやペットボトルなどの廃物を使っているためか、或いは手先が器用でないせいも、仕上がりはきれいとは言えない。物理授業では一人の生徒が前に出て、実験の説明をする。教師もいろいろな実験装置や模型でデモンストレーションをする。暗記型のレクチャーではない。

五) コンプレックス・サウド王教育複合施設¹¹・

教育省直轄の pioneer school である。Riyadh 市内には四つあり、現在二つが建設中で、全国には十校ある。一つの敷地内に三つの独立した学校が隣り合っており、それらが複合施設を構成している。施設全体の敷地十万平米、建坪は三万平米ある。生徒総数二、七〇〇人。総工費六千万SR (一七億円)。複合施設全体を所長が総括し、各校に副所長(校長)が置かれている。

(1) 小学校レベル (一六年) :

教師四〇人、スタッフ一〇人、三〇人学級、児童数一、〇〇〇人。児童全員がコンピュータ授業を受ける。教師はパソコン集中研修を受けた後、校内研修を頻繁に受ける。ラボは休み時間、および、授業後は、夜六時から十時まで使うことができる。教師はインターネット接続の

PCを使い、ラップトップを自宅に持ち帰ることが出来る。CD-ROM、映像、音声、ビデオ、その他可能な限りメディアを使おうとしているという。四〇人の教師のうち一人だけコンピュータを使おうとしない。しかし、来年は他校へ転勤させられる予定という。

四年生は PowerPoint を使って、めいめいスライドショーを準備している。ラボの四年生の授業にはコンピュータ教師二人、実習生が二人ついている。一五台のコンピュータはインターネット接続している。ラボの費用は教育省予算と家庭の寄付でまかなっている。図書館には四台のコンピュータがあり、ネット接続している。現在校内LANを構築中である。七〇%の児童が家庭でインターネットとアカウントを持っている。

三年生の教室には三台のパソコンとプリンターがある。ワイヤレスヘッドセット、ワイヤレスマイク、大型TVとVTR、オーディオアンプ、OHPが教室に置かれている。

(2) 中学校レベル (七九年) :

生徒数七四〇人、教師数三三。ラボには新しいパソコンが入るので、周辺機器などが準備室に積み上げられている。二〇台の端末があり、主としてリテラシーに使っ

ている。壁には教師の自作のパネルが掲げられ、キーボードインクなど、初歩的な解説をしている。しかし、生徒の多くはそのレベルを越え、グラフィックスソフトなどを使って、かなり高度な作品も制作できる。それらの作品も掲示されている。

(3) 高校レベル (二〇一一二) :

生徒数九六〇人。オリンピック選手練習用芝生多目的フィールドの他に、屋根付き屋外フィールドがある。コンピュータラボには一六台のコンピュータがあり、二人一組となつて使う。学習内容は、ワープロ、表計算、データベース Access、グラフィックス PaintBrush などである。一二年生は Basic、一〇年生は応用ソフトを使う。生徒の三〇%が自宅でパソコンを所有しているため、リテラシーレベルは高い。

一二年生の英語の授業は三〇人で教室が満杯となり、教室が狭いので歩くスペースもないくらいである。生徒から出された質問は、「私たちが改めるべき点は?」「私たちのよい点は?」「日本の発達の秘密は?」「日本の高校生の将来は?」などであった。

視聴覚室に相当する部屋には衛星放送受信設備があり、デジタル映像の視聴室もある。しかし、それを操作し

たり修理する技術者がいないため、費用をかけた割には効果を挙げていないのが偽らざるところだ、と案内の教師が言う。

イスラム教の教室には生徒数だけの敷物とコーランを置くテーブルが部屋いっぱい整然と並べられている。壁にはメッカの大きな写真が掛けられ、神聖な雰囲気を作り出している。お祈り(プレーヤー)、それにイスラム教とイスラム文化の時間がイスラム教徒である生徒達にとつては何物にも増して重要であることが、この教室からもうかがえる。因みに、イスラム教徒は一日五回のプレーヤーを必ず行うのであるが、日中は正午前後(地域と日によつて時間が変わる)に一回行うため、学校では全生徒と教師が中庭に整列してお祈りする。役所や銀行、ホテル、レストランなどでも行うので、その間、オフィスや店舗は閉鎖され、すべての活動が三〇分以上停止することになる。

六、コンピュータ教育

王国では現在コンピュータ教育の充実を学校教育の最重点目標としている。中学、高校にはコンピュータが導

入され、カリキュラムにもコンピュータが取り入れられている。中学の生徒はコンピュータリテラシーの授業を三年間履修する。コンピュータ理論、プログラミング、アプリケーションなどを週一時間学習する。プログラミングは中学の最終学年（三年）で取り上げている。高校生もコンピュータリテラシーの授業を三年間受講する。中学と同様、コンピュータ理論、プログラミング、アプリケーションを週一時間学習する。

英才教育協会では英才生徒を選抜する方法を検討中であるが、特に、コンピュータ、数学、理科の三教科で英才を発掘しようというのである。

教育省は「学校におけるコンピュータ教育」のプロジェクトを三年前から始めた。そして今年度、コンピュータ導入のために、一、〇〇〇万RS（三億円）の予算を計上した。

大学では教育ソフト開発のためのコンピュータ利用を専攻する学生三〇〇人が特別奨学金を受けている。教育省のプロジェクト「学校のコンピュータ教師の養成」は一九九七年に始まり、二〇〇一年に第一期生七〇人が教育大学を卒業して高校のコンピュータ教師となる。王立大学と合わせると二五〇人の卒業生がコンピュータ教師

となる予定である。

教育省のこのプロジェクトの一環として、リヤド教育大学を含む三教育大学には三年前にコンピュータ教育学科ができた。その専攻科目は、コンピュータ科学、コンピュータ関連教育、カリキュラムと教授法、二つのコンピュータ言語、アプリケーション (Excel, Internet)、ソフト評価、ソフト開発、個別研究、教科指導における利用、等である。リヤド教育大学では学校ラボの専門家、現職の小、中、高校の校長などを対象に、二六五以上の研修プログラムを開講しており、過去二年間に一四、〇〇〇人が受講している。

政府のコンピュータ教育重視の施策にもかかわらず、コンピュータ教員の確保は困難である。そのため、同じ問題を抱える英語科教員と共に、学校のコンピュータ科の教員には他教科の教員より二五%多く給料を支給することを政府は検討中であるという。教師の初任給が他の分野の卒業生のその三〇%増しであるが、さらにこれらの特定教科では二五%が上乘せされるのであるから、この案はこれら分野へ学生を引き付ける大きな誘因となる筈である。

教育省のスタッフや指導主事達から提供された以上の

ような情報や学校訪問などの経験から、王国のコンピュータ教育の総括をしてみよう。もちろん二ヶ月間に知り得たことは微々たるものであり、現状の表面を搔いた程度である。そのような限定付きで実態把握に迫り、その特徴や問題などを明らかにする。それによって王国のみならず、わが国の情報教育の推進のための手がかりも得られるだろう。

〈学校のコンピュータ台数〉

コンピュータ台数は多くはないが着実に増加しつつある。正確な統計資料はないが、スーパーバイザーや教師達の話を総合すると、一台もない学校がある反面、二〇台以上のパソコンを備えたラボを持つ学校も多い。訪問した学校に関しては、公私立とも小、中、高校のいずれも二〇台以上のパソコンを備えていた。

〈パソコン使用状況〉

パソコンのある学校での利用状況はかなり進んでいると言える。リテラシー・レベルを遥かに超えて、データベースや表計算の訓練を行っている。小学校ではゲーム、エデュテインメントとが中心であるが、中にはグラフィックスソフトの高度な応用も見られた。ソフトを使った四年生のグラフィックスの作品の展示の中にはかなり高

度なものもある。毎週一回のラボの授業だけでなく、家庭のパソコンを使って遊びながらソフトを使いこなせるようになったからだ、という説明であった。

パソコンラボの利用の推進においては、教師の指導力が必要な要因となるが、教師のコンピュータ技術は高いようである。もつともパソコンを使える教師の割合はまだそれほど高いとは言えないようである。

〈教師の技術力〉

コンピュータを使う教師のレベルはかなり高い。ワープロとしてだけでなく、教材提示のために Power Point を使っている。また、データベースとして Access も多くの教師が使えるという。グラフィックスの Adobe を使う教師も多い。このように、パソコンを使えない教師がまだ多い反面、使える教師の使用状況は良好であり、従って技術も高いように見受けられた。

教育省内の各部局にはコンピュータ技術スタッフが配属されているので、他のスタッフへの技術協力やトラブルシューティングに力を発揮している。そのために、総合的に、スタッフのパソコン利用は進んでいる。

〈インターネット〉

宗教上の理由から、西歐文化の影響を極度に警戒して

いるため、インターネット導入には極めて慎重である。英語により本国文化が侵害されるといふ理由である。この警戒感が薄らがない限り、インターネットの全面的導入はありえない。言語以上に写真やビデオの直観的刺激への接触を恐れるため、www を教育場面で利用することは現在では考えられない。¹²

学校のみならず、大学、教育委員会、教育省でもこの警戒心が強い。そのため、インターネットに接続したコンピュータは限られている。オフイスのパソコンを個人が自由にインターネット接続することはできない。KACST が市内全域のサーバーの役割を果たしているが、www への接続には制限を設けている。¹³

教育省内のオフイスのパソコン台数は多い。しかし、殆どがワープロとして文書作成に使うのであり、e-mail の普及はこれからである。その普及のためにはまず基盤整備が緊急の課題である。ISDN 回線の導入、光ファイバーネットワークの整備など、高速、大容量通信回線の普及にまず取り組まなければならない。その遅れが家庭での普及のネットになっっているのではなからうか。夕方への電話は繋がりにくい。この時間帯にインターネットに接続するには忍耐を要するのが実情である。

七、今後の改善のための方策

イスラム教義が国の政治や国民の思想や生活などすべてを支配しているため、わが国の価値観がそのまま国内に通用することはない。イスラム国家特有の制度や方法というものがある。しかし、それらを捨象した上で尚且つ、アウトサイダーのわれわれが指摘できる改善点ももちろん多々ある。

王国ではコンピュータ教育の推進を教育の重点施策としている。これまでは情報通信の鎖国政策を取ってきたが、九八年末にインターネットを解禁した。そのため、イスラムの固有の文化と価値観を堅持する上で、英語文化の所産であるインターネットがいわば脅威ともなり得るのである。この拒否できない情報通信の波に抗すことなく、その恩恵を受けながらグローバル化した情報化社会の一員として機能することが、王国の近代化に課せられた大きな課題である。こうした情報化を推進するために、王国が緊急に取り組まなければならない問題は多い。それらをここに挙げてみよう。

* 基盤整備・大容量化、高速化する通信技術に対応す

るために、その通信の基盤整備に精力的に取り組まなければならない。コンピュータのインターネット接続のためには専用回線 (a dedicated line instead of a dial-up line) がなければならない。遠隔教育の普及のためには、光ファイバーケーブルのネットワーク敷設をする必要がある。これは教育に限らず社会全体の通信基盤としても当然必要なものである。

* インターネット接続・インターネットの教育利用には解決しなければならぬ課題は多いが、だからといって、いつまでもそれを避けていることはできない。学校への導入は情報化時代の要請であり、世界的な潮流である。それに門戸を閉ざすことはグローバル化に逆行する。イスラム固有文化の堅持という Saudization と、政治、経済、科学、文化、教育における Globalization という矛盾する二つをどのように調整するか、それは政治レベルの判断である。科学文化の鎖国政策は、情報革命が進行する二一世紀には通用しない。

* 利用規定・上記の矛盾に対処するためには、コンピュータ利用の倫理、インターネット情報倫理の利用規定、コンピュータールなどをまず確立する必要がある。そして、ハイテクの利用のモラル教育を徹底する。ハッカ

ー、コピー、著作権侵害などの反社会的行為が犯罪であることを学校が責任を持って教育しなければならない。

コンピュータリテラシー教育・コンピュータリテラシー、テクノロジリテラシーを速やかに充実させる。教育レベルを向上させるためには、まずコミュニケーション、数学、科学、読み書き、創造的思考力を高めることによって、テクノロジリテラシー教育を充実する必要がある。

* 教師のリテラシー教育・生徒に比べて教師の技術習得力は低い。教員養成機関においてパソコンの教育を受けていないために、パソコンが普及した現在でも、教師達にはそれを習得したり使用したりすることに抵抗がある。生徒に教わることへの抵抗も強い。研修の機会も限られている。教育におけるパソコンの利用の鍵を握るのは教師であるから、教師への研修を強化することが先決である。

* パソコンの配備・現在はまだパソコンのない学校がある。教師と生徒達の間のパソコンの利用技術や利用頻度に関しての格差が大きい。そのため、まず学校へのパソコン導入を進める。ラボは勿論のこと、各教室へ一台ないしそれ以上を配置する。それによって、リテラシー

授業だけでなく、どの教科の授業においても必要が生じた場合に直ちにパソコンを使って資料を取り出ししたり、データベースにアクセスすることができるようにする。

*教室、ラボの整備…部屋の大きさは普通教室の二倍は必要である。部屋の面積が活動の内容と方法を規制する。現在の教室の広さは辛うじて講義に使える程度しかないため、多目的活動には不適當である。二〇名分の机と椅子以外にスペースの余裕がない。今後パソコンや遠隔教育機器やマルチメディア等を教室へ導入するためには、まず、このような教室の大きさを変える必要がある。そのためには学校全体の設計の見直しを要するであろう。

*教師へのラップトップパソコンの貸与…教師にはパソコンを学校だけでなく、家庭に持ち帰って使えるようにする。これにより、教師のリテラシーを高め、いつでもどこでもデータの収集ができるようにして、ネット上の豊富な資料を教育に活用させる。養成機関の教員にはコンピュータ、望ましくは家庭に持ち帰り、インターネット接続できるラップトップコンピュータを貸与すべきである。

*技術補佐、パソコン専任教員の配属…トラブルへの対応、教師への up-to-date な技術情報提供、授業での利

用についてのアドヴァイス、ハードやソフトの使用法の指導等を担当する専任教員が必要である。授業負担の多い教師は日進月歩の高度通信技術を独習することは不可能に近い。彼らに技術指導を行い、授業での応用を促すのがこの教員の任務である。

*今日のような情報化時代には教員養成機関には少なくともコンピュータ二〇台以上を備えたラボは不可欠である。二二世紀にはこれから教師になる学生は学校における高度な工学利用への備えをしておく必要がある。

*高度な工学に対処するためには、学校の中心に教授工学センターを設け、全教員と学生に奉仕する工学専門家配置すべきである。

工学専門家やアシスタントは最新の工学についての情報を提供し、教員達がいかに工学の利点を授業で生かしたらいかにについて助言を与えることにより、授業改善に大きく貢献できる。

*そのため、コンピュータ利用の教員研修を行い教員に最新の工学についての情報を提供するための施設設備が必要である。

*情報検索のために図書館はインターネットに接続したコンピュータを配備すべきである。

*図書館情報はすべてデジタル化し、世界的規模の図書館ネットワークの貸し出し制度を活用できるようにする。

*校長研修制度について。ワークショップで提起された質問であるが、現行の一学期の校長研修が効果的であるかどうか。校長が不在のときに起こった問題に誰が責任を負うか。この一つの解決法は、全体の研修プログラムをいくつかの短期研修、例えば三日間ずつに分割することである。¹⁴⁾

九、まとめ

王国はアメリカをモデルとし、多くの教師がアメリカで教育を受けているために、教育の制度や教育方法などに関して、日本との共通点は多い。しかし、イスラム教義が社会で絶対的な力を持っているために、類似点より相違点の方がはるかに多い事も事実である。その相違点が王国の教育の特徴と長所を生み出している。その二、三を挙げてみよう。

〈研修の重視〉

王国の教育の質を高める上で、これが最大の利点とな

っている。行政も教員も皆研修を提供したり受けたりすることに熱心である。サウデイの教員は他人から学んだり互いに教えあうために、議論を好んで行う。教員研修では講義より討論に比重が置かれている。教育省が監督して教育大学が提供する研修講座の種類は多く、その参加者数もかなり多い。

〈教師への尊敬〉

生徒、学生が教師を尊敬するために、生徒と教員の関係は良好である。教員の給料が高く、社会的地位も高いので、教職は若者には魅力的である。そのため、有能な若者を教職に引き付けることになっている。

〈謙虚な姿勢〉

教育大学の教員は海外で上級学位を取得するよう奨励されている。大多数の教員は海外で学び、Ph.D.を取り、最新の知識や技術を習得してきている。そのため、彼らは虚心で偏見がなく、外部の人たちと交流して研究や教育に役立つ物は何でも取り入れようという姿勢である。

〈向上への意欲〉

新しい物を吸収し、先進国に学び、現状を少しでも改善しようとする意欲は強い。彼らと接すると、あたかも明治時代に西洋文化に学び、政治、教育などの制度を確

立しようとした人たちの熱気に似たものを感じる。このエネルギーが教育改革を進め、近代的な制度や方法を導入することにつながっていると思われる。

学校種別と年限に関して、王国と日本の教育制度は類似している。しかし、両者には大きな違いが存在する。その違いは文化、社会の価値観、歴史、社会の教育の必要性、国民の教育期待などの違いから来るかもしれない。われわれは自国の教育制度に慣れているので、文化の全く異なった民族の視点でそれを見直す必要がある。その意味で、今回のサウディ訪問は自国で何が利点となり、何が不足しているのかを考える良い機会を与えてくれた。急激に変化しつつある情報化時代に、われわれは教育を改善するために何を如何に行うべきかについて意見交換を行い、われわれに直面している問題を解決するための情報と智慧を交換することができた。本論はそれらの、交換した情報、分かち合った智慧、直面する問題などを整理したものである。

注

*1 Mr. Abdalaziz S. Al-Belahy 教育省教職員課長との

面会時に提供された情報

- *2 Dr. Mohammed B. Al-Malki リヤド教育大学副学長から提供された情報
- *3 リヤド教育大学教育工学科 Dr. Saad A. Al-Dayel, Dr. Salah Badr, Dr. Ahmad Alzahrani & Dr. Abdolla Al Nour の案内で科内を見学した。
- *4 A Glance at Teachers Colleges at the MOE. Kingdom of Saudi Arabia Ministry of Education, Deputy Ministry for Teachers Colleges, 2000.
- *5 Dr. Ahmed Saad Mofareh 教育省教育大学課長と面会し、説明を受けた。
- *6 Dr. Motalag Al-Hazmi 教育省学生課長から提起された質問と提供された情報
- *12 Dr. Saleh M. Al-Dhubbaban 教育省指導監督課長
- *13 Dr. Abdullah Al Orainy 助教 教授 Institute of Electronics Research, KACST (King Abdilaziz City Science Technology) から王国のインターネットの現状とKACSTの任務について説明を受けた。
- *14 大島駐サウディアラビア大使へのレクチャーで提出した資料

訪問したRiyadh市内の学校：

- *7 Jareer Elementary School
- *8 Private Al-Majid School
- *9 Al-Faroug Secondary School
- *10 Al-Gulani Secondary School
- King Saud Educational Complex
- Educational Training Center, General Directorate of Education, Ministry of Education
- Riyadh Teachers College
- General Organization for Technology Education & Vocational Training (GOTEVT)
- Central Educational Supervision Department, Ministry of Education
- Department of English, Ministry of Education

〈資料〉

教育省スタッフや教育関係者から受けた質問

〈文部省〉

- ・文部省の組織と役割：予算、運営法、人事、職員採用について

・学習指導要領の性格、内容と扱い方

〈学校制度〉

- ・公立と私立の違い
- ・職業準備教育は
- 〈大学教育、入試〉
- ・高校生はどのようにして進路を決めるか。
- ・大学入学者の選抜はどのように行うか。
- ・国公立大学の入学試験とは。誰が問題を作成し採点するか。
- ・各大学は入学者選抜にセンター入試をどのように使うのか。
- ・個々の大学の入試科目は。
- 〈教員養成大学〉
- ・大学生はどのように教職の準備をするのか。
- ・教員資格はどのようにして与えられるのか。誰がその権限を持っているか。
- ・教員養成機関の卒業生のうち、どのくらいが教員になれるのか。
- ・教員養成大学への学生の入学の基準は？他の大学と比べてどうか？
- ・教員免許制度について。教員養成大学のカリキュラムは？

〈教育実習〉

- ・教員養成段階での訓練はどのように行うのか。教育実習はどこで行うか。教育実習の評価は誰が行うか。誰がそれを認定するのか。

〈教員採用〉

- ・教員を採用するのはどんな機関か。どのように行うか。
- ・卒業生でも就職できないという現状をどのように改善するか？

〈教員免許の基準、取得法、教師〉

- ・教員資格はどのようにして与えられるのか。誰がその権限を持っているか。どこでその資格取得の条件を満たすことが出来るか。
- ・教員資格取得の条件は？その資格取得のために特別な能力、条件があるか。教員認定をするために特別な試験があるか。
- ・教員免許のための必修科目は？
- ・教員、教育委員会、文部省職員の採用はどのように行うか。
- ・教員の社会的地位はアメリカと比べて高いか？
- ・教師の一日の生活スケジュールは？帰宅するまでの時間をどのように過ごすか？

- ・翌日の授業の準備をどのように行うか。

- ・学校の時間割は？

- ・教員の給料は？教員の給料は医者や技師などという他の専門職より高いか？

- ・教員を評価するのは誰か？校長は行政に評価結果を報告するのか？

- ・指導主事は教師を評価するか？指導主事の役目は何か？

- ・教員の給料は？教員の給料は医者や専門家と比べてどうか？

〈教員研修〉

- ・教師の現職教育の内容と方法、期間

- ・教員研修で利用するコンピュータ、ソフトはどんなものか。その保守、更新は？

- ・教員研修の特別なプログラムにはどんなものがあるか。初任者研修以後、教員に研修を受けさせるための動機付けとなるものは何か。それは義務かそれとも任意なのか？

- ・教員のための研修講座、公開講座の内容と方法は？その参加者は？

- ・コンピュータのような新しい技術を教師はどのように

習得するのか？

〈工学利用〉

- ・工学の教育利用の方法
- ・マルチメディアやインターネットの利用によって学習をどのように効果的に進めるか。
- ・カリキュラムの中にどのように工学を導入するか？
- ・工学の進歩にどのようにしてついていけたらよいか。
- ・古くなった機械をどのくらいの頻度で更新しなければならぬか？

〈リテラシー教育〉

- ・子供のリテラシーのみならず、教師のリテラシーをいかに高めるか。
 - ・子供がコンピュータを使うようにするにはどのような指導したらよいか？コンピュータ技術指導の方略は？
 - ・親や地域の人たちへの指導法は？
 - ・教師へのリテラシー、コンピュータ利用の指導法、コンピュータ利用の現職教育の方法は？
- 〈インターネット〉
- ・インターネットの悪影響は？英語はアラビア習字や芸術など、われわれの固有の文化や風俗に悪影響を及ぼさないか。

・イスラム文化を外国の影響から守り、自国の文化を維持するにはどうしたらよいか？

・インターネットのフリーアクセスを認めた場合どういう結果になるかは自明だが、ではどうしたらよいか？

・ウェブ上の有害情報の子供に見せないようにするにはどうしたらよいか？

・ファイヤーウォールのような手段はほかにあるか？

・教師にインターネットを利用させることは望ましいかどうか？

〈遠隔教育〉

- ・遠隔教育システムは日本で機能しているか？
- ・それは大学教育ではどんな利点があるか？そのシステムで単位取得が可能か？
- ・遠隔教育システムの運営母体は？その教材はどこが提供するか？
- ・サウデイで遠隔教育システムを行うとしたら、何が必要か？どんな準備をしなければならないか？
- ・高校生と成人のための遠隔教育システムは？
- ・放送大学の費用は？その運営の仕組みは？
- ・放送大学の単位取得の仕組みは？その教育プログラム内容は？

〈生涯教育、成人教育〉

- ・成人が教育を受けるようにするためにはどのように奨励したらよいか？
- ・成人教育のプログラムはどんなものがあるか？
- ・成人が教育を受けるよう動機付けているのは何か？
- ・王国で生涯教育を推進するためには何が必要か？
- ・生涯教育は誰の責任で行うか？
- ・遠隔教育システムで受講するメリットは？

〈その他〉

国家の繁栄のための主要な要因は何か？日本の繁栄の源は何か？

日本の社会の繁栄の原因は何か？